

雨の日の「お星様」

私が下の子を保育園にお迎えに行った時の話です。

いつもは自転車による送り迎えをしていますが、その日は雨でしたから、歩きでのお迎えでした。まだ、日が暮れるのが早い時期でしたので、五時にすでに日が暮れていました。お迎えには電車の操車場の上を陸橋で越えて行くのですが、すぐ近くに、工業高校のグラウンドがありライトが煌々と照っています。そして陸橋が雨に濡れてライトを反射しています。

すると、娘が突然、

「何かキラキラ光っている。」と、言い出しました。そして、

「あっ、見えなくなっちゃた。どこへいつちゃったのかなあ〜。」と、つぶやきます。

そこで、「どうしたの？」と尋ねると、

「あのね、きらきらひかっていたの。でも、すぐ消えちゃった。どこにいつちゃったのかなあ〜？ おかしいなあ。」

すると、すぐに、

「また、ひかった」と、地面を指差します。

すると、工業高校のグラウンドを照らすライトが、陸橋を照らしてキラキラ光っていたのです。

私が、「ほんとだ、きれいだね。」と言うと、

「ねっ、きれいでしょ？」と、得意顔。

「でも、何で光るんだろう？」と、歩きながらしばらく、考えていると、

「あっ！！ そうだ、きっとお空のお星様が、お散歩しているんだよ。だから、お空にお星様がいないんだよ。きっとそうだよ。」

「そうだね、きっとそうだよ。」

まさか、雨の日はお星様が散歩しているから、空にお星様がないなんて。う〜ん、さすがにびっくり。子供の発想力にはいつもながら、「脱帽」です。

真心のこもった嘘

中村元著『仏典をよむ2 真理のことば』という本を読んでいた、ちょっと気になった部分がありました。

この本の中で原始仏典において在家の教えとして説かれた『シンガーラの教え』という経典を紹介しているのですが、その中に4つの悪い行いとして殺生、盗み、邪淫、妄語をあげているのですが、その中の妄語について中村元氏は次のように解説しています。

「第四に「虚言」、嘘ですね。嘘を言ってはいけない、嘘を言うことは行為の汚れであるということです。人は真実を語るべきである。真実を語らないときにそれが偽り、虚言になるわけです。ただ、現実の世界においてはなかなかむずかしい問題にぶつかります。たとえば、悪人がやってきて脅した場合に、相手にいろいろ告げていいかどうか、あるいは病の重い人に向かって、その人が自分の病気はどうかと聞いたときに、何と答えたらいいか。場合にもよりますが、後者の例では、たとえ重病でも「あなたの病は軽いです、しっかりしなさい」と答えるときがありますね。これは相手に対して真心を持っているからこそこのことです。真心を持っているがゆえに、その人のためにならないことは言わない、ということも起こりうるのです。こういうのをどう考えたらいいか。

経典の他の箇所にも説かれておりますが、ほんとうに真理に達した人は、もしも相手のためにならないことであるならば、語らない、告げない。しかし、相手のためになることであるならば、たとえ相手の人が不愉快に思うことでもあえて言うことがある、そう説かれていることがあります。所詮、その根本は真心に由来するのです。真心を持っていれば、人に対して嘘をつくということもないわけです。ですから、仏典ではもちろん、バラモン教の聖典などでも、この嘘をつかないということと、「真実」「真心」ということばで表現していることがあります。」（p117）

これって、ようするに慈悲でもって嘘をつくならいいんだってことですよ？この「嘘」を「殺生」に置き換えたら、オウムのヴァジラヤーナになってしまうなあって感じました。『カナリアの詩』122号の「元サマナの掲示板書き込みから 18歳の誕生日」には次のように書いてあるのですが、

「原始仏教を学び直し、オウムの教義がブッタの教えと全く逆だと理解できた今となつては、断言できる。」（p5）

詳しくは書いてないので、具体的にオウムの教義のどの部分のことかはわかりませんが、おそらくヴァジラヤーナの部分ではないかと思うんです。元信者のこういう意見が多い感じがしますが、中村氏の解説を読むと原始仏典自体にそういう思想はあったのではないかなって感じがします。またインド後期密教になると慈悲による殺生ははっきり説かれているようです。ただオウムの場合、本当に慈悲の心が背景にあったかどうかということはまた別問題になりますが。

2004年8月に、母親が難病の筋委縮性側索硬化症（ALS）で寝たきりの息子の人工呼吸器を切って死亡させた事件がありましたが、これなどどうなるのでしょうか？体も動かせず、呼吸も自分でできず、苦しい毎日を送っていて、息子さんも死を望んでいたが自分で死ぬこともできない状態であったんです。そして母親は息子に対する愛情から殺したんです。

中村元氏の虚言の解説を読んだ人だったら、こういう例を考えると殺生だって真心からするならいいんじゃないかって結論にいたるのではないのでしょうか？よくオウムは仏教じゃないとか言う人がいますが、仏教自体にそういう危険思想は含まれているとも考えられるのではないかなという感じがしてきます。だからオウムは正しかったんだという結論になるわけではないですけどね。

ただ、私たち元信者がオウムのことを整理するのに、「オウムの教義は原始仏教とぜんぜん違う！だから間違っていたんだ」と結論づけて、それでおわりではちょっと違うんじゃないかなと思いました。

引用した中村元氏の『仏典をよむ』は全部で4巻のシリーズもので原始仏典から大乘、密教経典までをわかりやすく解説しています。字も大きくて読みやすいです。ちょっと仏教のこと勉強してみたいなって人におすすめです。

参考文献 中村元『仏典をよむ2 真理のことば』岩波書店

元サマナ

ラ ッ シ ー

最近では日本でもインド人がやっているような本格的なインド料理のレストラン増えてきましたが、そういうところによくある「ラッシー」という飲み物を飲んだことはありますか？明治乳業の「明治ブルガリアのむヨーグルト」みたいな感じの飲み物なんですけど、私はとくにマンゴーラッシーが好きですね。なぜかこのインド料理のお店でもコップにぎっしり氷を入れてラッシーを出すので、中身が少ない気がしてちょっと損した気分になります。インドではこれが普通なんではなかね。

知り合いでインドに留学していた人が話してたんですけど、「ラッシー」という言葉の発音で、たいていの日本人の話す「ラッシー」って発音は間違っているそうです。

「ラッシー」という飲み物は lassi と書きます。縄、ロープという意味のインドの言葉は rassi と綴るんですが、日本人の発音だと rassi の方になって、インド人には「縄」って言っているように聞こえるそうです。インド料理店のインド人は、日本人の「ラッシー」の発音に、普通だったら笑っちゃうところなんだけど、そのへんはわかっていて何も言わないそうです。

知り合いのその人がインドにいたとき、あるときレストランで食事してて、他の日本人がラッシーを注文してたそうなんです。そうしたら店のインド人が「そんなのない」って答えたそうです。その日本人客は、店の別の客がラッシーを飲んでいたので、「あそこで飲んでいるじゃないか」と店の人に言ったんですが、それでも店員は「そんなのない！」の一点張りだったそうなんです。知り合いは、そのやりとりを聞いていて、事情がわかったので、店の人に「いじわるしないでだしてやれよ。日本人はちゃんと発音できないんだから」と言ってあげたそうです。

オウムはヨーガやインド仏教を教義に取り入れていたので、いろいろインドの言葉が使われていましたが、間違っって使われていた言葉もありました。例えば「カーリーユガ」という言葉ですが、一般的には「カリユガ」と表記されるのが普通です。カリをカーリーと表記するとカーリー女神のことのようになってしまいます。またオウムでは小乗のことを「ヒナヤーナ」と言っていましたが、これは一般的には「ヒーナヤーナ」と表記します。この言葉はサンスクリット語なんですけど、長母音という長くのばして発音する文字が使われているので「ヒーナ」と普通はカタカナで綴られます。なんだかオウムってのばさなくていいのをのばして、のばさなくちゃいけないのをの

ばさないで面白いですね。ちなみに「サマディ」も普通は「サマーディ」と発音されます。

まあ、麻原氏は研究者でなくて宗教家だったのだから、そういう間違いは多少あってもしかたないのかもしれないですね。オウムの中だったらいいけど、よそで「カーリーユガ」「ヒナヤーナ」なんて言うと、恥かしいちゃうかも。

世間では普通に「ヨガ」って言ったり、書いたりするけど、インド学者の中には「ヨガ」と表記されていることを「ヨーガ」って伸ばして書かなくちゃだめだと言う人がいます。これについてはオウムでもきちんしてましたね。

最後にヨーガと表記することについての中村元氏の見解を紹介しておきます。

「'yoga' の 'yo' は長母音である。したがって、多くのインド学者がしているように、わたくしは「ヨーガ」と書く。これに対して、世間一般のヨーガの指導者たちは「ヨガ」と書く。この表記を日本のサンスクリット学者たちは嘲笑しているが、わたくしは、この表記法を必ずしも目くじら立てて非難する必要もないと思う。そのわけは、日本語の長母音とサンスクリット語の長母音とは必ずしも同一ではないからである。日本人であるわたくしが「ヨーガ」と発音すると、その「ヨー」は長母音ではなくてヴェーダの *pluti* である、と伝統的なインド人学者は批評する。所詮、日本語のカナでインド人の発音を正確に音写することは困難である。」（『中村元選集 第24巻 ヨーガとサーンキアの思想』 p344）

参考文献 中村元『中村元選集 第24巻 ヨーガとサーンキアの思想』春秋社

— 目 次 —

- | | | |
|-------|-------------------|-------------------|
| 1 P | 手記 | 雨の日の「お星さま」 |
| 2 P～ | 手記 | 「真心のこもった嘘」 |
| 4 P～ | 手記 | 「ラッシー」 |
| 6 P～ | 窓口寄稿 | 「脱会」じゃないよ |
| 8 P～ | 窓口寄稿 | 松本被告の新弁護人の一人 |
| 10 P～ | オウマー西村新人類さんの日記の転載 | |
| | | 「尊師はやっぱりキリストの再来だ」 |
| 12 P | 窓口 | 「日本国民とオウム信者」 |

「脱会」じゃないよ

窓口の2006. 5. 3と5. 19日記より

しかしなあ、「脱会」という表現はやめてよ、メディアさん。公安がそういうからって、なんでマスメディアもそれに従うんだろう。自分で考えてよ。

困るんですよ、本当の「脱会者」にとって、こんな分裂で、離れる少数の方について、「脱会」なんて表現されると。

法的にも、集団の分裂は、労働組合の分裂をめぐる資産の分割などで判例にもなっているけれど、(両派が話し合っただけで会計も別にし、各施設についても戦いを続けているが、世田谷区烏山の棲み分け？みたいに、それなりに話し合いをしているのだから)

こういう形のは、組織分割というものであって、脱退、脱会と表現できないものでしょうが。

----- 共同通信抄本

- >上祐史浩代表(43)が早ければ7月をめどに、
- >教団を脱会して新たな宗教団体を立ち上げる意向
- >を持っていることが2日、公安当局の調べなどで分かった。
- >上祐代表は支持派の信者とともに脱会する方針とみられ、
- >実現すれば現在の教団の分裂は決定的
- >一方で教義理論の確立や資金調達面での課題
- >松本智津夫被告(51)の裁判動向など流動的な要素
- >「分裂はさらにずれ込む」(公安関係者)との見方も

たしかに、先日TBSなりで報じられた上祐録音の証拠もありますね。上祐の声でした。その他もいろいろ言っている。

なお、この録音が流れたのは、上祐派が集団の内外に向けて漏らしたもので、観測気球ということもありえるのですが。一つまみこう流すことで世論や公安、観察処分の行方を見ることと、不安がる信徒を自派に引き込むとのこと。

正統派管理の上祐サイトが閉鎖されてますね。 <http://www.joyu.to/>
アーレフサイトの表紙から上祐の写真もなくなっている <http://www.aleph.to/>
あとは、アーレフサイトの成就者のところから、上祐が消えるかどうか、
上祐派の「師」が消されるかどうか <http://www.aleph.to/saint/>
また上祐秘書室の？ブログがどう書くか、が興味あるところ。
<http://blog.livedoor.jp/alephdaihyou/>

追伸

うーん、有田さんサイト4月30日日記、凄い話が出てしまっていますね。
<http://www.web-arita.com/sui064b.html>

>わたしたちの会話の横では、「オウム家族の会」会長
>永岡弘行ご夫妻が麻原被告の二女、三女と熱心に話
>していた。何とも不思議な、しかし好ましい光景である。

なんとか軟着陸させないと、

私が今もっとも許せないのが、こんな麻原の子どもを利用してまで、死刑
確定をとめようとする一部の弁護士たち。

そもそも、控訴趣意書を出さなかった自分たちのミスなのに。なんか、刑
事訴訟継続中なのに、国と鑑定医相手に5000万円賠償を求める民事訴訟
を起こしたとかでして、もうメチャクチャですね。

(息子の私立中学校入学拒否についての訴訟はまだ分かるのですが。なんで
そんな私立に行くお金があるわけ？ とは思うが)

分裂云々は、昨年末から実質しているから、不思議ではない。

ちなみに、上祐は、TBSの報道特集が暴露している通り、オウムの教え
を残すためには、麻原死刑執行などの後に共倒れにしないために、方針の違
う2つの分けるといっているのであり、話し合っの「組織分割」です。

どちらもオウム真理教。まあ上祐派が後に盛り返してくるのだろうけれど。

ちなみに、麻原家の収入は、オウム真理教からの40万円と、パソコン会
社Y2PCからのもの。40万円の方は反上祐派が出すことになるのだろう。

以 上

松本被告の新弁護人の一人

2006. 4. 20 窓口の日記より

脱会したが弁護ですか、ほー、まったくまあ、明記せざるを得ないではないか。まったくまあ、

吉岡毅（ヨシオカツヨシです、タケシではありません）君、
教祖の弁護人になどなるから、明記せざるを得なくなる。

オウム真理教の出家者は、全ての人生を麻原彰晃に奉げたものです。身口意のすべて、財産も人間関係も。だから、真実の脱会というのは、実に辛い。

脱会した後は、呆然とし、自己嫌悪となり、麻原彰晃を憎み、麻原を憎む自分も憎む、いつかは麻原を乗り越えろと。

で、いつ脱会したって？ えっ、1999年、へー、そーなんだ。

名簿からは抜いたのでしょうかね、もう布施もしていないかもしれない。

で、それでなんで教祖の弁護人になるの？ 選任は、三女ですか、二女ですか？

ボランティア的で費用はさほどもらえないでしょうけれど、されるのですか？ 布施の実践ですね。

だけれど、脱会者だと言うのですか。

貴方は、長く法務部をしてきた人ですよ。あの青山の下でね。

青山さん逮捕の後、信者の次々の逮捕、裁判対策、破防法の対策、大変だったでしょう。

そのあなたは、司法事件受験組の責任者格。麻原さん弁護の為にこそ、始めたのでしたよねえ。そしてその通りになっただけのことでしょうが。

受かったのは慶賀ですが、いつ脱会したって？ えっ。そして、主任弁護士にもそんな背景を言わずに弁護人になったのですか。目的の為には手段を選ばない、ヴァジラヤーナのままですね。へー、すごいね。

以下、グルと弟子との関係からして、そのマインド・コントロール、洗脳の強烈さからして、教祖の指示で極悪非道の行為を重ねたオウム真理教の、今後を知るためには、重大な公益的事実ですから、明らかにします。

埼玉弁護士会のホームページなどからは

>いなかの事件も区別なく、常に信念と真心をもって共感し、精緻な判断と最善の法技術を提供すべく努力いたします。法にかかわるすべての事件・相談をお受けしますが、特に刑事事件の受任は弁護士の使命だと信じます。

とのこと。日弁連登録番号33477、昨年10月から弁護士、吉岡毅君（ヨシオカツヨシですーまったく同じ字で、東京にヨシオカタケン弁護士がおられます。どうぞ誤解なきように）

ヴィタッカ、ヴィチャレーナ、マノーサンカンタ、ムッタ

1973年7月生、32歳、出家者番号1051番、1993年6月27日出家、血液型一略一、1994年当時、究聖法院、沙長。1995年、青山吉伸が逮捕された後だったか、法務部長だったかと。

以下、昨日の報道より

>東京拘置所で松本被告と接見も行ってた。

>主任の松下明夫弁護士ー「18日に初めて知り、本人に確認した。7～8年前に脱退し『今は教団とは無関係』と言っており問題ない。もしも接見などで教団との連絡役を務めるようなことをしたら直ちにやめてもらう」と

へーそうなんだ、知らなかったんだって、

主任は実質、麻原家の子どもらの後見人にもなっていた松井武弁護士だろうと思っていたが、やはり、そんな感じなのかなあ。

>教団の「司法試験受験グループ」メンバー

>95年5月には法務部長に就任

>99年に脱会し、昨年10月、弁護士登録した。

>弁護団には、同じ事務所のベテランと一緒に加わった。

ああ、そうだったのか。ベテランの方は知っている弁護士なのだが、いったいどう考えておられるのか。破壊的カルトの本質を、わかっておられないと思う。

>弁護団の松井武弁護士は「知っていたが、元信徒だからと問題にするのは差別だ」と言う。

同弁護士は一審主任の安田弁護士の所にいるのです。安田さんが1995年末から国選そして2女選任での私選弁護士、となっていたとき、安田さんが、吉岡君を当然知らないなんていえない以上、松井さんも知っているのが当たり前。

なんか主任とされる弁護士が可哀想に思う。

以上

オウマー 西村新人類さんの

<http://www.bekkoame.ne.jp/i/sinzinrui/nikki.htm> より

その1 (2006.3.28) 尊師はやっぱりキリストの再来だ

(冒頭省略) -----あのねえ、尊師は自分の生命をコントロールできるんだよ。いつ自分が死ぬのか尊師は自分で決められるの。オウムの教義の基礎じゃないですか。尊師はただ単に今生を終えたいとお考えになったのだ。このタイミングで涅槃するのが人間界にとって一番利益がある、そう考えたのである。

キリストは十字架にかけられた際に、「わが神、わが神、なんぞわれを見捨てたまいし」と叫んだ(って古臭い言い回しの日本語でじゃないけど)は有名な話である。変な話ではないか。神である筈のイエスが死を恐れ、神にすがったなんて！ 否。これこそがキリストが神の子である証明なのである。

キリストは私達に代って死を肩代わりされたのである。そして私達に代わって苦しめたのだ。あの叫びこそ、キリストが私達の身代わりになって死んでくれた証明なのである。

そして、現代のキリストである尊師も同じなのである。尊師は私達に代って死や苦しみを肩代わりされているのである。

尊師がうんこまみれになったり、娘の前でバリバリオナニー全開したのも、これらは全て汚れきった私達の姿の肩代わりなのである。現代人の醜いカルマを背負って、私達の罪を償うために、今まさに神々に身を供養しようとする尊師。

私は尊師の弟子で良かった。私は、仮に裁判が再開しようとも、心を動かすことなくグルを観想する。

だからこそ今日もピコ猫。 最近はずっかりお笑い扱い、つてのか、この読者にとっては「お笑い学者のエース」として有名な故・向坂逸郎氏は、「労働者は酒を飲んではいけない」と確固たる信念を持っていた。(以下のエピソードは何かで読んだ本の記憶頼り。細部が間違ってたらごめんなさい)

ある日、向坂逸郎が弟子(?)と何かしてた時に、マルクスがビールを飲んでいる写真を弟子が見つけた。弟子は向坂逸郎に「先生！ マルクスがビールを飲んでます！」と言ったが、向坂尊師は動じず「ばかもん、これはマ

ルクスはビールを飲んではいけないと教えている写真なのだ」と答えたそうだ。

いつの世も、真に偉大な魂を理解できる人は少ない。

ソ連人の教養は日本人よりはるかに高く、プロレタリアによる文字通りの「独裁」が正しいなんて嘘だと、だれが断言できようか。

その2 (2006.3.28) 呆れてものが言えない

無論、東京高裁の聖者弾圧の事ではない。私が呆れたのは、こんな些細な事で動揺する煩悩にまみれたサマナ諸君の事である。

愚か者はおそらくこう言うのであろう。「超能力を持っている筈の尊師はどうして壁をすりぬけて脱獄しないのですか」と。勿論サマナ諸君はご存じだろう。尊師がその気になれば、脱獄どころか刑務所から天候を操ること、否、悪業の固まりをポアする事だって可能なのである。しかし尊師はそれをあえてなさらない。

何故か。尊師は、全ての人類に試練を与えたのだ。尊師が聖者である事は、ちょっと超越神力を使って脱獄し、東京タワーの一本でもへし折ってしまえば直ぐに分かることだ。しかし、そういう「奇跡の力」という安直な方法で衆生を覚醒させて真理に目覚めさせても、それはかえって人類のためにならない。「尊師が娘の前でオナニーをした」などという馬鹿げた情報に騙される事なく、自らの意思で、苦しいハードな教学によって目覚めて欲しいと尊師は願っているのである。

ライオンは子供を千尋の谷に突き落とし、そこからはい上がってきた子ライオンのみを後継者として育てるという（グルが好まれる野球漫画より）。超越神力による安易な覚醒は、池田大作や大川隆法のような詐欺師の手法によって覆される可能性がある。しかし、自らの金剛の道を歩んだ者は、来世必ず天界に生まれ変わるのである。それなのに、どうしてお前らは尊師の親心・真の慈愛に気が付かないのか。

今回の控訴棄却は、尊師の仕掛けたマハームドラーなのである。さすがに、「尊師が娘の前でオナニーをした」などという馬鹿げた聖者誹謗（勿論これも尊師が信と帰依を試したマハームドラー）に動じる法友はいなかったようだが、たかが現世の法で裁かれた（それもでっち上げである事はオリーブの栄光氏の評論を読めば明快）だけで、いったい何を動じているのか。

今こそグルへの帰依が試されているのである。

そんな訳で、やっどこさ春ですね。

以上転載にて

日本国民とオウム信者

大日本帝国の場合とオウムの場合を一緒に話す人がいまだ居る。オウムの術中そのままです。「・大日本帝国に似ているとして、国民を味方につける。」が、上祐方針です。

しかしね。

1－大日本帝国では、女性は勿論、男性としてそう自由に選挙はできなかった、

2－大日本帝国では、政権に逆らえば、投獄されたり、殺された

3－国家の場合、そこから抜けることは経済的、文化的、過程のことからも事実上極めて困難

4－日本の場合、靖国神社への公式参拝をしているなど不十分なところもあるが、国家としては1995年の首相声明にあるとおりしっかり謝罪しており、条約締結の際にさまざまな形で補償をしており、さらに不十分なところについてさまざまに運動している人もしっかりいる。

5－日本国民は、単に日本国民なのであり、多くの人「天皇陛下万歳」「大東亜共栄圏を作ろう！」などの思想にもはやない。

1－オウムの場合、もともと勧誘されたが嵌らないでいた人もいた

2－オウムの場合、マインド・コントロール、洗脳があるとはいえ、それでも脱走した人も少なくなかった、

3－オウムの場合、逃げる場所は実際上はあった

4－オウムの場合、まして1995.5.16の後は、容易に逃げられた、それからもう11年

5－しかも、その信者は未だ「麻原彰晃」に帰依している。

以上の違いはきわめて大きいものです。

ですから、たしかに、大日本帝国の所業を許した日本国民に責任はあるでしょう、戦後の国民にも日本の責任を政府に果たさせ尽きていない以上、責任はあるでしょうが、それと現役オウム信者を責任(=どの程度非難できるかというレベル)は、あまりに異なります。

このことは、しょもない「一部の知識人」が時に言うことでもあるので、改めて書きました。

発行 カナリヤの会

〒242-0021

神奈川県大和市中央 2-1-15 パークロード大和ビル5階

大和法律事務所 窓口 滝本太郎 気付

電話 046-263-0130 ファックス 046-263-0375 takitara@yha.att.ne.jp

横浜銀行大和支店 普通 1343078 カナリヤの会 滝本太郎